

地域説明会において各会場ならびに事前にWebでいただいたご質問・ご意見

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
説明会の開催主旨	・本日の説明会の目的、本音を聞かせていただきたい。	・柏崎刈羽原子力発電所の7号機の新規制基準に基づく国の審査や、安全対策工事が完了したとの認識のもと、広く県民の皆さまに説明させていただくとともにご意見を頂きたいと考え、説明会を開催させていただきました。	柏崎
	・新潟県の3つの検証や福島の方角すら出でならず、市民の前に出るタイミングではない。 ・再稼働については避難が大切である。 ・なぜ、このような大雪の中で説明会を開催したのか。	・柏崎刈羽原子力発電所の7号機の新規制基準に基づく国の審査や、安全対策工事が完了したとの認識のもと、広く県民の皆さまに説明させていただくとともにご意見を頂きたいと考え、説明会を開催させていただきました。 ・再稼働に関しましては、安全を最優先に地元の方のご理解が大前提であるということに変わりはありません。 ・新潟県の技術委員会の検証につきましても、十分な議論が交わされた後でなければ、再稼働の議論には進めないと考えております。	柏崎
	・上越・長岡・新潟は今盛んにUPZが問題になっているが、なぜ県央でないのか。地域に密接した企業という観念であれば、全ての市町村でやればよい。	・今回の説明会で、安全対策工に関する説明はすべて終了だとは考えておりません。 ・広報誌によるお知らせや、コミュニケーションブースという小規模な私どもの取り組みをご紹介する広報活動を県内30市町村で実施させていただいているので、そのような取り組みを今後も引き続き行ってまいりたいと考えています。	柏崎
	・橋田代表が先ほど安全対策工事が完了したから本日の説明会を開催したと言っていた。未完了なのに、そのような言葉が一度も出なかった。	・1月12日に一旦は安全対策工事が完了したものと判断し、地域説明会を計画しましたが、途中で工事未完了を確認したため、地域説明会の中止も社内で検討しました。 ・しかし、このような説明会は地域の皆さまからご意見いただける貴重な場で大切にすべきと考え、ご批判はあるかとは思いますが、地域説明会の開催を決定いたしました。	新潟
	・説明会は新潟県全体をまわるべき。 ・30km圏内の市町村の再稼働の同意について、東電の考えを聞きたい。 ・資料には、使用済燃料の処理について説明が無いが、どうして書かなかったのか。資料に記載すべきである。	・新潟県内で広く皆さま方にしっかりと説明をすべきであるという点については、これからも新潟県内で説明できる機会を設けてまいりたいと考えております。 ・新潟本部が出来て6年、新潟県内で、大きな説明会はなかなか開催できておりませんが、小規模型のコミュニケーションブースは展開しており、お話をさせて頂く機会、またご意見を伺う機会を設けているところです。 ・説明資料に使用済燃料の処理、最終処分について触れていないとお話については、今回の説明会は、新規制基準の適合審査が終わって、安全対策工事が一部が未完了でありましたが、安全対策はどういったものかをご説明させていただくことを目的に計画したものです。 ・使用済燃料の処分や扱いにご関心があるということ、今後説明会を行う際には、配慮をしていきたいと考えております。	新潟
安全対策	・貯水池の耐震性に問題ないのか。	・淡水貯水池は、事故時に冷却用の淡水を供給できるよう、高台の上に容量約2万トンとなる貯水池を設置したものです。 ・淡水貯水池の作り方は、セメント改良土で堤防を一周造り、その表面を三層構造の変位追従性のある遮水シートで覆っており、相応の耐震性を有していると考えています。	柏崎
	・貯水池の耐震強度はどのように設計されているのか。	・淡水貯水池については、高台の上に約2万トンの貯水池を設置しております。構造はセメント改良土で堤防を一周造り、その表面を三層構造の遮水シートで覆っております。そのうちゴム製のもの2層あり、強度は変位追従性、耐久性の高い材料を選定しており、相応の耐震性があると考えております。 ・なお、砂の地盤の上で、液状化の心配があるところではありますが、周辺の地下水水位が十分低いところであり、液状化することはないと判断しております。 ・また、池の水が揺れて溢れるような、スロッシングという現象についても評価をおこない、問題ないことを確認しております。 ・より信頼性の高い設備を構築するために今後も努めてまいります。	上越

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	<ul style="list-style-type: none"> 貯水池を見に行ったら、思っていたより小さかったが、貯水池の水で冷し続けられる時間はどのくらいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 設置変更許可の審査の中で6号機と7号機の両方を運転する場合における重大事故等の対策の有効性を評価しています。 具体的には、全交直流電源喪失、非常用炉心冷却系が全て機能しない状態で、大きな配管の破断により原子炉の水位がどんどん下がっていくという事故が6号機と7号機で同時に起こると想定した場合、他の号機の使用済燃料プールへの注水も含めて、7日間補給できる量になります。 もしそれが途絶えても、さらに海水を利用する設備を現在用意しております。 	上越
	<ul style="list-style-type: none"> 貯水池の耐震強度を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 淡水貯水池については、高台の上に約2万トンの貯水池を設置しております。構造はセメント改良土で堤防を一周造り、その表面を三層構造の遮水シートで覆っております。そのうちゴム製のが2層あり、強度は変位追従性、耐久性の高い材料を選定しており、相応の耐震性があると考えております。 なお、砂の地盤の上で、液状化の心配があるところではありますが、周辺の地下水水位が十分低いところであり、液状化することはないと判断しております。 また、池の水が揺れて溢れるような、スロッシングという現象についても評価をおこない、問題ないことを確認しております。 より信頼性の高い設備を構築するために今後も努めてまいります。 	Web 事前 質問
	<ul style="list-style-type: none"> 地震で配管が壊れてしまえば、フィルタベント設備や代替循環冷却設備といった安全対策は使えない。そういった配管に対する対策はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 配管が破損して安全対策の設備が機能を失うようなことがないよう、柏崎刈羽原子力発電所では、想定した基準地震動に対する耐震強度評価を満足するよう、必要な場所には補強やサポートを追加する工事を実施しております。 	柏崎
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 水密扉を津波対策でアピールしているが、7号機の水密扉は何回かトラブルが起きている。全く情報公開されていないが、どうなっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 不適合の区分によって公表のレベルが変わってまいります。 水密扉のトラブル（故障）に関しては、公表区分はいずれも「その他」であり、不適合情報としてホームページで公開しているのが実態です。 中身については、いずれの事案も水密扉の性能は維持されており、内部の部品が疲労で壊れたなどの類いです。 疲労で壊れるのは大丈夫なのかとご心配されるかと思いますが、水密扉は元々金庫のようなものをベースに設計されており、頻繁に開閉する事を想定しておりませんでした。 その結果、疲労で壊れることが分かりましたので、適切に設計を変更し、現在は壊れにくくなっており、ある程度の開閉回数になる前に補修していく事で機能が維持できると考えております。 	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> 雪の中に放射性物質が入ってしまうと二次災害が起こると新潟日報に掲載されていたが、どうなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> フィルタベント設備により、セシウム等の粒子状放射性物質を99.9%以上除去することができます。 その前段で、新除熱システム（代替循環冷却設備）により格納容器の健全性を確保し、可能な限り原子炉格納容器ベントを回避することとしています。 	新潟
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策について、フィルタベントなど色々説明があったが、福島のリルトダウンの検証もしていない中、私は給水の入口配管が壊れてリルトダウンしたと思っている。フィルタベントなんて付けても地震で付け根がやられてしまえばあっても役に立たない。 原子力規制委員会では、中越沖地震前までの基準地震動で設計された審査やストレステスト、一番重要な安全率の審査はまだ行っていない。 GPSで調べると7号機建屋は、年間3cmも上下運動している。これではタービン発電機の軸心が保てなく、重大事故の原因になる。 まだ地盤の問題があり、調査も終わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 福島第一原子力発電所の事故時の機器状態について、フィルタベント設備等、安全設備が柏崎で機能するのかという点を回答いたします。 まず、福島第一原子力発電所の事故では、当時の運転データから、安全上重要な機能を有する主要な設備は地震時及び地震直後において、きちんと安全機能は維持していたことを弊社は確認しており、地震による損傷は確認されておりません。 それから、柏崎刈羽原子力発電所は、新規制基準に基づき、新たな基準地震動に基づいた耐震評価をしています。これは、フィルタベント設備も例外ではなく、重要な安全機能を有する設備は、想定される地震動（基準地震動）に対して耐える耐震性を確保しております。 一方で、安全設計において、配管破断により原子炉を冷却する水が喪失し、直ちに原子炉の水位が低下するような事故に対しても、安全機能が有効に機能することを確認しております。これは、福島第一原子力発電所の事故時点で用意していた設計基準上の電源設備や非常用炉心冷却設備が作動しないという厳しい条件で評価しております。 「建屋の変動や傾斜があるのではないか」という質問に関して、私どもは、中越沖地震後に建屋の変動測量を実施しており、測量結果は、大澳側の一部で変動がやや大きくなっている傾向を把握しておりますが、設計の変動誤差範囲内として建屋内の機器へ影響を及ぼさないような傾き、許容される傾きとして小さいものと考えております。 今後も、継続して測量の実施と結果の確認を行い、皆様のご安心のためにも知見の拡充に努め、安全性の向上に努めてまいりたいと思います。 	刈羽

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
安全対策	・壊れるのは溶接の宿命と考えている。中越沖地震後に基準地震動を上げたが、原子炉の溶接はそのまま。昔の原子炉を使って良い訳がないと思うが、どうなのか。	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉圧力容器等の重要な設備や機器に関しては、溶接の施工法や検査が厳しく決められており、もちろん製造段階ではそれがしっかり守られているか検査で確認している状況です。 原子炉の安全率に関しては、規格に基づいて、設計裕度や安全裕度を持たせており、今回想定した基準地震動に対して、耐震強度を満足しています。 そして規格基準で定めるような安全裕度が確保できているのか等を工事計画における強度計算書でしっかり評価し、その結果を規制庁に審査していただいております。 原子炉本体そのものの設計については、地震というよりも内圧が支配的になっているため、地震に対しては規格基準に基づいてしっかり裕度を確保していくことが大事であると考えています。 	柏崎
	・中越沖地震を超える地震の可能性がかなり高いのではないかと考えているが、どうか。	<ul style="list-style-type: none"> 中越沖地震を超える地震の可能性についてですが、当発電所では想定される震源像（海域の地震なのか陸域の地震なのか・短い断層による地震なのか長大な断層による地震なのか）毎に複数の基準地震動を計8通り考慮しており、それぞれ特性が異なることから一概には答えられませんが、例えば過去に経験した中越沖地震等の揺れを大きく上回る非常に厳しい揺れを想定しております。 陸域の活断層でいうと、長岡平野西縁断層というところが評価の対象になりますが、こちらは延長91kmを基本ケースとして、更にそれを上回る十日町まで断層が運動するような153kmと、非常に保守的な地震動の設定を行い、基準地震動を策定しております。 また、基準地震動はそれぞれ地下の岩盤面において定義されるため、直接震度を評価することはできませんが、地表面における揺れは概ね震度6強を超えて震度7相当の大きさになると考えております。 	柏崎
	・原発を岩盤に作っているなら、やらなくていいはずの液化化対策を相当やっているのはなぜか。	<ul style="list-style-type: none"> 発電所の主要な設備は、西山層というおよそ200万年前に形成された岩盤の上に設置されております。建物の地震時にかかる設置圧よりも岩盤の支持力の方が大きいため、問題はございません。 一部の設備は、直接岩盤に着岩しておらず、杭基礎で支持している設備もあります。支持力そのものは西山層に杭で伝達されますが、その周りの地盤が液化化してしまうことによって、杭に大きな曲げの力や剪断の力が加わり、杭が損傷を受ける可能性があります。 液化化対策を実施している箇所は、一般産業施設向けの設計基準であれば液化化する判定になることのないような古い時代の砂であり、安全側に立って、液化化するものとして対策工事を実施するものです。支持性能に問題があるわけではなく、その周辺の地盤変位を抑制することによって、一層安全性を高めるものです。 	柏崎
	<ul style="list-style-type: none"> 壊れるのは溶接の宿命。地震後に柏崎の基準地震動を上げたが、原子炉の溶接はそのまま。昔の原子炉を使って良い訳がない。 フィルタベントをつけても、配管の付け根はみんなやられる。 GPSで見ると、7号機の建屋は年間3センチ沈んでいる。タービンと発電機は大丈夫なのか。発電所は普通岩盤の上に立つが、柏崎は泥の上に立っている。 再稼働はあり得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 溶接の話と原子炉の話と受け止め、まとめてご回答させていただきます。 原子炉圧力容器等の重要な設備や機器に関しては、溶接の施工法や検査が厳しく決められており、もちろん製造段階ではそれがしっかり守られているか検査で確認している状況です。 原子炉の安全率に関しては、規格に基づいて、設計裕度や安全裕度を持たせています。 この内容については、今回、想定した基準地震動に対して、耐震強度が満足している、そして規格基準で定めるような安全裕度が確保できているのか等を工事計画における強度計算書でしっかり計算し、規制庁にて審査していただいております。原子炉本体そのものについては、地震というよりも内圧による裕度が支配的になっているため、原子炉は地震に対しては規格基準に基づいてしっかり裕度を確保していくことが大事であると考えております。 亀裂があった場合には危険である、というご指摘は同感であり、製造段階でしっかり溶接されていること、亀裂が無いことを確認し、運転開始後に亀裂が無いことを確認します。仮に亀裂があったとしても大丈夫なように温度管理や圧力管理などを行い、安全を確保して運用している状況です。 	柏崎
テロ対策	<ul style="list-style-type: none"> テロ対策は航空機の9.11を考えてのことと思われるが、入室問題を考えると、航空機テロどころかIDカード1枚取ればテロができることを証明した。どのような防衛体制になっているのか、せて内部からの了解が無ければ入れないほどの、しっかりした体制がなければならぬ。 北朝鮮が核やミサイルを開発しているが、東電の対策をどう考えているのか聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 北朝鮮のミサイルは戦闘行為のため、原子炉等規制法の枠組みを超えるものです。国が北朝鮮と外交的な安全保障で解決する問題だが、発電所でも、ミサイルが発射されたという情報入手した際、発電所周辺の警戒を強化する体制をとっております。 ミサイルあるいは大型の航空機などが、建屋に衝突あるいは敷地内に落下するような事も想定しており、ジェットエンジン燃料で大きな火災が起きた場合に備え、大容量放水車による消火活動を準備しております。 そのため所員が大型免許・大型特殊免許・牽引免許等を取得し、各種車両は社員自らが運転・操作して事故対応にあたるという訓練を重ねており、それを今後、規制庁の検査でも確認して頂くことになります。 将来的には、そういう運用に加えて新たなテロ対策の施設も準備しており、更に強固な対応が出来るように準備しております。 	新潟
テロ対策	<ul style="list-style-type: none"> 消防自動車等の運転者は人がいなければ動かせないが、どうなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 発電所の社員が自ら大型免許・大型特殊免許・牽引免許等を取得し、各種車両を社員自らが運転・操作して事故対応にあたるという訓練を重ねております。 	新潟

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年、大勢の人を避難させるようなことをした組織だ。 ・それ以降、5 km圏内の人は直ちに避難という制度になった。そこに私たちは生活している。こんなことを最初から言われていたら、柏崎市や刈羽村に発電所を立地させなかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所の事故により、多くの皆さま方にご心配とご迷惑をおかけしましたことを、お詫び申し上げます。 ・事故の責任については、東京電力は、福島復興を会社の第一目一番地としており、そこをやらなければ存続を許されない会社だと認識しております。 ・今後とも福島第一・第二原子力発電所の廃炉、除染、賠償に全力をあげて取り組んでまいります。 ・同時に原子力事業者として、原子力発電の安全性向上にも努めてまいりたいと考えております。 	刈羽
	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年に知人が津波の被害で海水ポンプが使えなくなる過酷事故の指摘をしたが、東電は対策をとらず2011年の事故となった。なぜ無視して対策をとらなかったのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震調査研究推進本部の見解や貞観津波に関する試算をしたにも係わらず、具体的な対策に結び付けなかったのは、あくまでも津波の算出に必要な不可欠な波源モデル等の知見が定まっていないなか、社内検討の参考として、仮想的な波源に基づいて自主的に行ったものであったことからです。 ・また、推進本部の見解には具体的な波源モデルもないことなどから、土木学会の専門家に検討していただき、明確にルール化した上で対応すること、それまでは現行のルールである土木学会の津波評価技術に従って評価すること等を決定しました。 ・振り返ってみれば、知見が十分とは言えない津波に対し、土木学会の「津波評価技術」に基づく評価によって、想定を上回る津波が来る可能性は低いと判断し、自ら対策を考えて迅速に深層防護の備えを行う姿勢が足りなかったと考えております。 	長岡
	<ul style="list-style-type: none"> ・東電の方は想定外ということをどのように考えているのか。 ・不安の気持ちを受け止めるようにお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所の事故の教訓である「安全はこれで十分だと思っはいけない」という思いを元に原子力安全改革プランを策定いたしました。 ・事故後に入社した社員も増えてきていることから、福島第一原子力発電所の事故の教訓をしっかりと次世代に伝えてまいります。 	長岡
	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所の事故によって安全神話は崩壊したが、新たな安全神話を構築しようとしている。核物質のコントロールができるまで再稼働すべきではない。事故が起こったらいつまで誰が責任を負うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保安規定には原子力発電所の安全性向上の責任が社長にあることを明記しました。加えて、「安全はこれで十分ということを絶対に思っはいけない」という福島第一原子力発電所事故の最大の教訓を踏まえ、各組織が収集したあらゆるリスク情報に対して、社長自らが主体性をもって重大なリスクに関与し、「十分安全かどうか」を問いかけ、判断していくことで、原子力発電所を安全に運転するという責任を果たしてまいります。 	長岡
	<ul style="list-style-type: none"> ・原発を止めれば済むこと。安全性について東電はどういう責任を取るのか、取れるのか。 ・社長以下、本当に反省してほしい。福島第一原子力発電所の事故でいったい何を学んだのか。何を反省しているのか全然伝わってこない。私たち市民や地元住民は、命を東電に預けたつもりもない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全はこれで十分だと絶対に思っはいけないと考えております。安全性の向上にゴールはないという事が福島第一原子力発電所事故の最大の教訓です。 ・各組織が、様々なリスクを収集し、社長自らが主体性を持って重大なリスクの一つ一つ関与し判断していくことで、原子力発電所を安全に運転していく責任を果たし、その実現に向けて社長自ら先頭を立てて取り組んでまいります。 	上越
	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所の事故に遭われた方が何千人もいる事実を踏まえて、東電のみなさんはどういった思いで再稼働に向かわせるのか心境を伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来月で福島第一原子力発電所の事故から10年経ちますが、今なお大変なご負担ご迷惑をおかけしていることを心からお詫び申し上げます。 ・福島第一原子力発電所の事故以降、東京電力は福島復興を第一目一番地に据えることで存続を許された会社です。今もなお福島復興のために、また賠償・除染といったことにも、全力をあげて取り組んでいるところでございます。 ・加えて、福島第一原子力発電所の事故から得られた教訓として、「安全はこれで十分ということを絶対に思っはいけない」をしっかりと胸に刻み、安全性向上に向けた努力に終わりはなく、引き続き柏崎刈羽原子力発電所の運営にあたって、しっかり取り組んでまいります。 	新潟

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	<ul style="list-style-type: none"> 東電は常々と、安全第一と繰り返し言う。何かがあると、社員教育をすと繰り返ししてきた。結果、今回のことが起こった。IDカードを不正使用した人が中央制御室に入出りできる人だったということは大変驚きである。 東電の安全対策の有り様はない。安全教育は無いということが明白になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の事案に関して、地元の方だけでなく広く社会の皆さまに大変なご心配をお掛けしたことにしてお詫び申し上げます。 特に、社員教育について、これまで以上にしっかりやってまいりたいとお話しさせていただきましたが、どういった所が不足していたのか、本件を繰り返さないように一生懸命やっております。 事案が起こった後の対策や活動についてご説明しますと、これまで入所時に、発電所に勤務する者、社員も含め、セキュリティに関する教育は行っております。また、繰り返し、意識を高める醸成活動も行っているところです。 それでも足りないというご指摘について、我々も大変、反省しております。今後、原子力規制庁からもご指導いただきますが、まずはIDカードの厳格管理や所員へのメッセージも教育になると考えております。 また、倫理観の醸成についても教育を徹底している所でございますが、他人のIDカードを流用してしまう事が起こらないように、施設管理の再徹底もしているところです。 その他にも細かいことがございますが、しっかりと実効性を上げるような教育をこれから運用してまいります。 	刈羽
	<ul style="list-style-type: none"> ID不正について、マスコミ発表のあとに東電が発表した。似たような事案として協力企業による免許偽造があり、その時も東電自らが公表することはなかった。安全に関する大事な問題を東電が自ら公表しないということを危うく思っている。 私たちが避難するときに一番重要なのは、東電から正確かつ迅速な情報が出てこなければならない。先ほど、避難の判断が遅れることのないようにと言っていたが、今回のIDや偽造免許証のことについて、私たちが安全に大事だと思うことは全て遅れがち。マスコミの後に公開するという、非常に問題な公開の仕方だと思っている。これでは私たちが安全に避難することは不可能。こういう状態の東電である以上、とても迅速な避難はできないし、そのような情報公開に関しては問題だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開に関しては、正確な情報を迅速に、分かりやすくお伝えすることが必要だと考えています。 ただ、その中で核物質防護に関することは、徹底した情報公開の中でも、ある種例外でありますので、限定的に解釈していく必要がございます。 ご意見の中で、マスコミが先に公表し、東京電力は後だとお話しがありました。核物質防護に関わる事案は公開することがなかなか出来ないため、証明が難しいですが、本事案の発生後、速やかに原子力規制庁には報告しております。 決して、事態の隠蔽を図っていたわけではないことをご説明させていただきます。 	刈羽
ID不正使用	<ul style="list-style-type: none"> 他人のIDを使って中央制御室へ入った。無数のチェックがあったはず。これを通り抜けるとは、なれ合いとしかいようがない。核防護規定を自ら作ったものを、自ら破った。 原子力規制委員会からも認可を受けている。メディアが公表するまで発表しなかったのは、隠したいという思いがあったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人のIDカードの不正使用につきまして、皆さまにご心配をおかけし、大変申し訳なく思っております。改めて深くお詫び申し上げます。 核セキュリティ、防護対策を再度徹底させるとともに、社員教育にも改めて努めてまいります。 このような事案を含めたトラブルは、発生した後に対応するのではなく、発生しないように社員教育をしていくとともに、温床になるような仕事のやり方について、再度改善を図り、しっかりと対応させていただきます。 また、本事案の発生後、速やかに原子力規制庁には報告しており、決して、事態の隠蔽を図っていたわけではないことをご説明させていただきます。 	柏崎
	<ul style="list-style-type: none"> テロ対策という問題、IDカードの件が9月26日であって、なぜ今頃発表したのか。本当のところを聞かせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> IDカード不正使用に関しては、あってはならない事案だと思っております。改めて、核セキュリティ対策を徹底させるとともに、社員教育を徹底していきたいと考えております。 なぜ、今頃なのかという話もいただきましたが、昨年9月の下旬に事象が発生した後、速やかに原子力規制庁には報告しております。 決して、事態の隠蔽を図っていたわけではないことをご説明させていただきます。 	柏崎
	<ul style="list-style-type: none"> IDカードは紛失したのか、紛失した職員は組織図のどこの所属のものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 紛失したと思って他人のカードを使用しましたが、自分のカードはロッカーの中にありました。 個人の所属に関してはプライバシーに関わることなので回答はえさせていただきますが、20代男性、発電所勤務経験6年の職員です。 	長岡
	<ul style="list-style-type: none"> いつになったら謝罪のニュースを見なくなるのか。 IDカードの問題では原子力規制庁も一緒に隠蔽しており、信頼を得ることは出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 福島第一原子力発電所の事故につきましては、心よりお詫び申し上げます。 このような事故を二度と起こしてはいけないという教訓を胸に、安全最優先で柏崎刈羽原子力発電所をしっかりと運営してまいります。 IDカード不正使用に関しては、昨年9月21日に発覚してから速やかに原子力規制庁に報告しています。 決して、事態の隠蔽を図っていたわけではないことをご説明させていただきます。 	長岡

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	<ul style="list-style-type: none"> ・IDの不正使用について、聞いたときは本当に驚いて恐ろしく思った。簡単にIDが盗めて写真と顔が違うのにそのカードを使って中へ入った。 ・そもそも顔が違っていれば他人のカードを使うという事は考えないと思うが、日常的にそれが使えるようなことを当人が感じていたのではないかと推測してしまう。 ・日ごろのカードの管理とか出入管理が非常に疑問で「何やってんだ」とあきれ返るばかり。テロなんか起きないだろうと甘く考えていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当人は勤務をしなければいけない、遅刻してはいけないという思いから、同僚のロッカーにあるIDカードを使用してしまいました。 ・その上で、常習的かという点について、手続きを突破するような事案があったかどうか記録を見る限り、今回以外にはございませんでした。本人に聞き取り調査をした中でも、思いつきでそういうことに至ったとこのことを確認しております。 ・核セキュリティが甘いところのご指摘については、社員一同、私も含めて教育を実施しております。外部共有者に対しては、海外事例・国内事案等も含めて定期的実施しておりますが、今回のように内部に対して甘かったというご指摘を真摯に受け止め、教育だけに頼ることなく今後どうしていくか社内で検討してまいります。 	上越
	<ul style="list-style-type: none"> ・IDカードの不正使用問題について、当初東電は地元自治体に内緒にした。原子力規制庁に確認したところ、原子炉等規制法では詳細部分では抵触するが、概要では抵触しないとの解釈をもらっている。 ・これは東電が恣意的に法律を勝手に解釈し、地元の内緒にした事は問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生した9月20日の翌日に事案を確認して、直ちに原子力規制庁へ発生の連絡をしております。その後原因等を調査して、速やかに対策についても報告しております。情報公開の在り方については、核物質防護措置の詳細が公になる恐れがありますため「核原料物質、核燃料物質および原子炉の規制に関する法律」に基づいて公表を控えました。 ・模倣犯が出る恐れがあるために詳細はお答えできませんが、規制委員会で審議された後に、対策がおおむね良とされた時点では、今まで通りに我々も公表することを検討しておりました。 ・一切隠すという意図はありません。この公表内容が、原子力規制庁から出されている内容とずいぶん違うのではないかとご指摘については、今回の原子力規制委員会の公表内容を参考にし、原子力規制庁と相談しながら、今後公表の在り方を検討してまいります。 	新潟
ID 不正使用	<ul style="list-style-type: none"> ・IDカードを不正使用した社員は、どんな目的で中央制御室へ入ろうとしたのか。 ・核セキュリティについてテロの危険性のある非常にお粗末な事案である。セキュリティ対策はそんなに簡単に他人のIDカードで入れるような体制なのか。 ・なぜ、カードを無くして、他人のロッカーからカード取ったのか。原発の管理の重要性が理解できていない。なぜ、社員の意識の浸透が出ていないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所の防護措置がどのような設備で、どのような体制になっているかという詳細は、模倣犯などに情報を与えることになるため、回答を控させていただきます。 ・今回の件については、中央制御室に入室する資格のある者が、勤務を行う際に自分のIDカードが見つからず、他人のカードを使用しました。 ・無資格の人間が妨害破壊行為を行う目的ではございませんでした。ただ、そもそも勤務が目的であっても他人のIDカードで入ることは許されない事であるため、改めて、核セキュリティの重要性の再教育を行っております。 ・また、一人一人のIDカードの施錠管理、他人の貸し借り禁止を再徹底いたしました。 ・発電所の入域にいたる本人確認のプロセスも、直ちに翌日より見直しを行い、同じ状況では入れない状態にしております。 	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> ・ID不正使用を9月21日社長に報告したとき、社長は公表についてどのような指示を出したのか？原子力規制庁に公表をどうするのか問い正したのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・社長からは「これまでの核物質防護の事案に関しての対処に則って対応するように」とのコメントがございました。 ・原子力規制庁と相談したのかについては、「従来の核物質防護に関連する事案に関しては報告する」という事で報告しております。 	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前に制御室が見える部屋等を視察させていただきましたが、いくつもゲートがあって警備員の方がカードと顔写真を照合していました。それでも入室できてしまったということは、警備員のチェックが全く機能していないということです。人が介在することのない生体認証（虹彩など）だけのシステムに早急に変えるべきです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本件発生以降、原子力部門全職員や協力企業に対して核セキュリティに関する再教育を行うとともに、職員に対するIDカードの施錠管理の再徹底、IDカードの本人確認プロセスの見直し等の対策を実施しておりますが、今回の原子力規制委員会のご指摘等も踏まえ、既に実施した対策に加え、発電所として強固な核物質防護システムを構築するために必要な措置について、さらなる対策・検討を早急に進め、実施してまいります。 	Web事前質問
	<ul style="list-style-type: none"> ・不正入室した職員の紛失した「IDカード」自体は見つかったのか。また、他の職員の「IDカード」の管理、監督はどうなっていたのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該職員のIDカードは発見されております。 ・IDカードの管理については、施錠できる場所に保管し他人が持ち出せないよう管理しております。 	Web事前質問

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
ID不正使用 工事未完了	<ul style="list-style-type: none"> ・今回起きた二つの事件について、品質管理、あるいは教育を強化していく対応策があったが、そもそも何が原因なのか分析は行われているのか。 ・その分析がなければ、再教育だと言っても、何を教育すればいいのかわからない。話の中に、原因究明については全くなかったが、その点について聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IDカードは、社員の意識の部分、それから人定確認が突破されてしまったことによるものです。そういったやり方、許可をする権限、今弱いところを社内でも、原子力規制庁にも報告して、教育も含めて再発防止対策を取らせていただいております。その上で、更に様々な側面から調査・検討を進めております。 ・新規制基準に基づく安全対策工事の一部未完了についても、今回管理が不足していた原因が組織間の情報の授受や仕事の進め方の中で欠落していた部分、失念したことも判明しております。 ・現在、本社と発電所を含めた組織全体で広範に総点検を進めております。 ・総点検の結果がまとまり次第、原因と再発防止策を含めご説明させていただきます。 	上越
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・地元だと避難の問題。避難が必要な企業は社会的に認められるのか。原点に戻らなければならない。 ・大雪で地元の道路は大混乱、学校も休校、企業も休み。東電も出社が遅れたと聞く。ワゴン車を配備しているが、除雪されていない状況だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪に関しては、まずは住民の皆さまが避難を余儀なくされるような事態が発生しないように発電所の対策を備えていくことが当然であります。 ・その上で、災害時の住民の皆さまの避難に関しては、基本的には行政からの指示に基づいて実施しますが、悪天候時においても避難の実効性を高める事が重要だと考えております。 ・そのようなことから明日、新潟県の個別訓練は冬季の被ばく想定を行い実施されると聞いております。 ・そのような取り組みを進められている所へ、事業者として出来る限りのご支援をさせていただき、避難の実効性を高めていくことを考えております。重ねて申し上げますが、事業者として出来る限りを注いでまいりたいと考えております。 ・雪の中の福祉車両に関して、降雪時は先日のような大雪の中でも、車両の運用で避難へのご協力ができるよう、しっかりと体制を整えることが、非常に重要と考えております。 ・ご案内の通り、福祉車両を30台程度準備しております。風雪時には、地震の時と違い、事前に天気予報等で情報を得ることもできます。 ・従って、社員の間で連絡体制の強化や福祉車両の燃料をしっかりと入れ、除雪機材の準備をするなどを行いました。雪が一定の収まりを迎えた時に、社員を動員して、まず、福祉車両からすべて除雪をしました。訓練も兼ね、そのような対応をさせていただきました。 ・そういうことを繰り返して準備し、もしくは改善を重ねながら迅速に対応出来るよう努めてまいります。 ・渋滞の場合によっては道路が通れない場合は、道路管理者としっかり情報連携しながら迂回ルートを検討し、ご支援ができるよう努めます。 ・このようなことについても普段から訓練を重ねて、新潟県への行訓練や地域の訓練、社内の訓練を通じて、力量を高めていきたいと考えております。 	柏崎
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の大雪のような時に避難できる体制があるのか。それを説明すべきではないのか。 ・2万人が大雪の最中でも避難できる説明を何故しないのか。無責任すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所原子力発電所の事故の反省を踏まえ、様々な安全対策を実施しております。まずは、住民の皆さまがご避難をするという事態に陥ることの無いよう、安全対策をしっかりとまいりたいと考えております。 ・その安全対策とは別に、もし発電所の中で異常や災害が発生した場合には、速やかに、正確な情報を伝達するということとなります。その後、状況が刻々と変化する情報についても、しっかりと関係者と共有し、住民の皆さまの避難は、国の方で判断し、実施されることとなりますが、その判断が遅れることがないよう、必要な時に速やかに判断できるようにしてまいりたいと考えております。 ・そうすることによって、避難の時間をなるべく長くとれるようにすることが大事だと考えております。 ・昨日も、新潟県の冬季の避難訓練が柏崎市内で実施されました。豪雪地域で落雪等による集落の孤立、しかもそこに負傷者も発生したという前提での訓練で、自衛隊やヘリコプターなどを含め総動員をかけて、訓練を行ったと聞いております。 ・昨日は、事業者には参加要請がありませんでしたが、昨年、一昨年と行われた新潟県の総合防災訓練や昨日行われました冬季の訓練などを積み重ねて、課題解決していくものと思っております。 ・避難に対して100点はないという風に考えております。しかし、常に100点を目指して訓練を重ねながら、力量を磨いていくこと。その中で、原子力事業者として、できる限りの協力、支援を行い、努力を積み重ねていくことだという風に考えております。 	刈羽
	<ul style="list-style-type: none"> ・23ページに住民避難支援とある。福島第一原子力発電所の事故で住民避難の重要性が顕在化とある。 ・11ページには、起動前の検査と起動の間に原子炉起動とある。 ・今日は安全性向上への取り組みということで、住民避難の計画や、実際に全村民や全市民を入れての避難訓練を行ってから、問題を解決してからの原子炉起動となると思う。これについて教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈羽村の皆さまの避難訓練について、石井が説明しましたが、福島第一原子力発電所の事故により、避難の重要性については、通報から始まり様々な混乱があったことが反省として出ております。 ・そういった反省から、現在、この「柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会」を通じ、国や自治体、事業者といった、それぞれの役割の調整をしっかりと議論をしながら進めているところだと承知しております。 ・刈羽村の皆さまの訓練については、実際に実施された、昨年、一昨年の新潟県防災訓練にも柏崎市民や刈羽村民の多くの皆さまが実動を伴って訓練に参加しています。 ・当社もそこへ100名を超えて参加し、一緒に訓練をしています。避難訓練そのものは、各自治体で実施されるものですが、当然、当社は積極的に最大限の協力をしていく所存です。 ・柏崎市や刈羽村以外の自治体でも、個別訓練を実施されています。新潟県が、昨年10月24日に住民避難訓練を実施し、同じ日に複数の自治体が個別の避難訓練を実施されています。 ・当社も、そこに参加させていただいて、一緒にスクリーニング体験等を行っています。ぜひ今後も訓練があれば、ご要請を頂いた場合、最大限にお手伝いさせていただければと思っております。 	刈羽

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雪のことを今日も取り上げられた。昨日、冬期の避難訓練が行われた。積み重ねて100点を目指すということですが、どうみても100点満点で10点未満だと思ふ。 ・5年前にも豪雪があったが、あのとき道路状況は何も変わらないし、村も改善を施していない。 ・福祉車両31台配置した。私も福祉車両に関わっているが、雪が沢山降って、何にもできない。何の用もなしていないものを預けられている状況。避難が大変ということで、よろしく願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雪の場合の避難や福祉車両などについて、まず、冬季の悪天候の時に、避難の実効性は必要だと考えています。どのような降雪時にも、しっかりと避難への協力ができるように体制整備を行っています。 ・道路の状況等も徐々に変化し、積雪だけではなく、地震等でも通行不可が予想されます。 ・このため、自治体の皆さまとの協調や道路管理者の皆さまを含めた関係の皆さまとの情報共有について、普段の訓練からしっかりと取り組み、日々、改善に努めていく所存です。 ・その中で、特に福祉車両について、「柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会」の中で弊社に要請があった、福祉施設に入所される皆さまのご避難に関する支援について、昨年末、福祉車両を31台用意しました。10月25日に納車され、先日の大雪を踏まえ、稼働できるような体制を整えたところです。 ・地震と異なり、雪の場合は、事前に情報を知ることができるため、事前に燃料を満タンにしたり、除雪用具を配備できました。また確保した除雪機は、事前に使い方を訓練する等したことにより、速やかに対応ができたと考えております。 ・配備を追加する等の検討や課題等の反省点についても見えてきており、速やかに改善を行ってまいります。 ・100点満点の避難は無く、ご指摘のように10点にも満たないかもしれませんが、100点を指すために訓練に取り組んでいき、それが皆さまのご安心に繋がるようにすることが、当社の責務と考えております。 	刈羽
	<ul style="list-style-type: none"> ・実効性のある避難計画の作成が再稼働の条件となっているが、今年のような大雪では担保できないと考えるがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難計画は自治体で作成するもので、当社が判断することはできませんが、計画の実行性を高めるために、事業者として最大限の協力をするつもりであります。 ・避難活動は、自治体が主導で実施されるものですが、当社としては、発電所の事故収束にあたらぬ職務の者を積極的に活用して、仮に住民の皆さまが避難しなければならぬ事態が起きた場合には、避難するうえで困難を緩和させることが事業者の責務と考えております。 ・そもそも避難する事態に陥らないような安全対策や体制の整備をしていく必要があります。 ・万一、災害等で設備異常が発生した際には、正確で迅速な通報をいたします。情報を共有しながら時々刻々と変化する状態を共有し、必要な個所で必要な判断ができる状態を作る事で、住民の皆さまが避難しなければならぬ状態が来た時に、その状態を早く判断することができます。少しでも長く避難の時間をとることができるようになります。 ・昨年、一昨年と新潟県がおこなった原子力防災訓練や、過日、雪の中で行った柏崎市市内での柏崎刈羽原子力発電所防災訓練などを通じながら、改善を重ねて実行性を上げ、できる限りの支援、協力を行っていく所存です。 	新潟
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪時の避難計画について、大雪で避難できない場合には、原子炉を停止するのか。 ・また J アラートが出た場合には、原子炉の緊急停止を考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の皆さまが避難することはあってはいませんが、仮にあったとするならば、その時の状態は、今も昔も、原子炉そのものは、冷やす、止める、閉じ込める、というところで、住民の皆さまが避難することがないようにするのは大前提となります。 ・先日の三連休の大雪時は、大雪は事前に情報があるため、体制はとっており、除雪はメインの道路はもちろんですが、安全上重要な設備、可搬型の設備など重大な事故の時に使う設備をすぐに使用できるように、あらかじめ、常に除雪をするよう、24時間体制で確保しているため、雪そのものに対するプラントの問題はございません。 	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> ・大雪の避難について、新潟日報に（原発事故で）避難となった場合、大雪では避難できないと1面で掲載されていたが、リスク管理上避難できないのであれば、再稼働せず廃炉にすべきだと思うが、東電の認識はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先日の三連休の大雪時は、大雪は事前に情報があるため、体制はとっており、除雪はメインの道路はもちろんですが、安全上重要な設備、可搬型の設備など重大な事故の時に使う設備をすぐに使用できるように、あらかじめ、常に除雪をするよう、24時間体制で確保しているため、雪そのものに対するプラントの問題はございません。 ・大雪の避難については、基本的に避難計画は国の主導の下、地域の中で作り上げているところです。避難計画に100点は無いと思っており、安全と同じで、日々訓練しながら、積んでいくということになります。一つの事例としては、先般行われた柏崎の訓練もそうですが、大雪により避難が困難だと想定される場合は、国の制度の中で「原子力災害円滑化モデル事業」というものがあります。 ・ここ4年間で柏崎市が手を上げて、採択されています。道路の整備や、様々な情報を共有するツール、監視カメラ、除雪の対応などが実際に事業として始まっています。加えて、訓練を積み重ねて実効性をあげていく事だと思います。 	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のような豪雪の際の住民避難はどうするのか。今回のような雪が降る中で、発電所災害が発生したら地域住民は避難できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、発電所の事故や災害が発生しないように発電所として体制をしっかりと整えてまいります。 ・そのうえで、災害時の地域住民の避難は、行政からの指示に基づき実施されます。冬季の悪天候時においても避難の実効性を高めていくことは非常に重要であると考えております。 ・今後、新潟県の個別訓練として冬季の避難訓練が実施されると聞いておりますが、こうした取り組みを進めて行くことで、実効性がさらに高まっていくものと考えております。 ・私ども事業者としても最大限の協力をしてまいります。 	Web事前質問

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
避難	<ul style="list-style-type: none"> 発電所の親族によれば、構内の道路の除雪も追いつかずあちこちで車が動けなくなっていたと聞きましたが、事実でしょうか。また発電所には緊急時に電源車やポンプ車などが配備されているようですが、今回の大雪では動ける体制だったのでしょうか。 今回のような大雪に備えて、ロードヒーティングなど人に頼らない融雪装置を設置すべきです。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の大雪によるプラント不具合や問題等は生じておりません。 なお、3号機および4号機において、原子炉建屋の外気取り入れ口に設置したフィルタが雪で詰まる状況を確認したため、当該空調を停止し、雪の詰まりを解消させるとともに、外気を取り入れない別の系統（非常用ガス処理系）を利用する対応を実施いたしました。なお、天候が回復したタイミングで元の空調に戻しております。 当社・委託員にて車両移動のための構内道路、駐車場の除雪を行い、運転員・巡視員・警備員の移動と巡視点検に影響はありませんでした。また緊急時に必要な車両等についても、終日、重機による除雪作業で構内アクセスルートを確保しております。 	Web事前質問
安全協定	<p>情報公開について、自治体との安全協定に基づいて連絡するのは当たり前であるが、それ以外はどうなのか。</p>	<p>情報公開について回答します。この資料の中では「安全協定に基づく定められたもの」というのを一つ目に書かせていただいておりますが、これ以外の情報についても、不適合情報やその他協定に基づかないレベルのトラブル情報もホームページで公開しております。もちろん大きな事故やトラブルも公表しており、実勢としては小さなものでも公開しております。</p>	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> 福島第一原子力発電所の事故時、政府は20km圏内は避難せよ。その後30km圏内避難となった。アメリカは80km圏内は避難せよと指示を出した。結果して32km（20マイル）で良かった。 新潟市は柏崎市から75Kmくらいにある。柏崎刈羽原子力発電所で事故があったときに新潟市は避難対象地もしくは、受け入れ地になる。 柏崎刈羽原子力発電所の事故のとき、新潟市はどうなるのかお聞きしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所で事故が発生した場合に事業者が一番大事にしなければならないのは、発電所でどういう事が起きているか、正確かつ迅速に皆さま方を始め、県内や国内へお伝えすることです。 日ごろから、所長の石井以下、情報を正確・迅速に出す訓練を繰り返し行っております。 新潟市を含めて、新潟県の全ての市町村と安全協定を結んでおります。安全協定の内容は情報をお伝えするというもので、新潟市にも、発電所で事故が起きた場合には、情報を正確に迅速にお届けするという事です。 	新潟
地元理解	<p>地元同意を待っているというが、県民・市民が蚊帳の外に置かれるような形について私は同意できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地元同意に関しては、手続的には、地元である柏崎市、刈羽村、新潟県からのご理解をいただくことが必要と考えております。 それ以外の市町村の皆さまに対しても、本日の説明会、もしくは説明会以外の形で私たちの取り組みを広く県民の皆さまにお届けできるようなことに、今後、一層努めていきたいと考えております。 	柏崎
	<p>再稼働を前提としていない条件で質問する。30km圏内の自治体に事前同意を求める動きがあるが、どう思うか。</p>	<p>発電所を立地させていただいている柏崎市、刈羽村、また新潟県の理解は当然の事ながら必要だと考えております。それ以外の周辺自治体については、広域自治体として新潟県が意見を集めるという事ですが、当社も様々なご意見を賜るように説明や広報活動を行ってまいります。</p>	新潟
	<ul style="list-style-type: none"> 新聞で、ある自治体の代表の方が「地元自治体に再稼働に対する同意権・拒否権はない。地元が同意しないと運転はしてはいけないというルールは無い。」と発言。原子力規制委員会の審査に合格すれば、自治体の判断は必要ないと言っている。自治体住民を無視した、民主主義をないがしろにした発言ではないか。 原発の30 km圏内の自治体研究会の方が、再稼働の際には事前に自治体に丁寧に説明して事前了解を得ると明記した新協定を東電さんと締結するという案が出ている。東電さんの再稼働の事前了解、地元同意について考え方について、お聞きしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同意権、拒否権については、確かに法令上において権利という形で規定されるものがないと認識しております。 当社は、再稼働に関して、地元の皆さまのご理解を大前提にお伝えしてきましたが、何と言っても発電所を立地させていただいている刈羽村、柏崎市の皆さま、新潟県の皆さまのご理解を賜ることが大前提と考えております。 ご理解の賜り方については、規定が無いため、その都度ご理解をいただくよう進めて行きたいと考えております。 周辺自治体の皆さまについては、広域自治体として新潟県の方で意見を取り纏められると考えております。 当社としては、周辺自治体の皆さまに何もお伝えしないという事ではなく、広報広聴活動を展開し、お伝えすべきことをお伝えし、ご意見をお伺いし、取り組みを進めて行くものと考えております。 	刈羽
福島第一原子力発電所事故の損害賠償	<p>経営陣は福島第一原子力発電所事故の責任を取ったのか。誠意を持って賠償を払っているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福島第一原子力発電所の事故による賠償について、今も原子力損害賠償制度の枠組みの下で、紛争審査会の中間指針を踏まえ、福島第一原子力発電所の事故によって被害を受けられた方々に、迅速、且つ公正な賠償金のお支払に取り組んでおります。 被害を受けられた方々の個別の事情を丁寧に伺いながら、寄り添った、親切的な対応に引き続き取り組んでまいりたいと考えております。 旧経営層の責任については、現在、係争中のため、コメントは控させていただきますが、保安規定に関しては「社長の責任」を明記しております。 	柏崎

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	・柏崎刈羽原子力発電所から20kmに住む。安全対策にお金と時間をかけているのは分かるが、事故はどのように起こるか分からない。今後また福島第一原子力発電所級の事故が起こった時に地域に対して補償案はあるのか具体的に提示できるのか。できないならなぜか。	・本日お示した地震対策、津波対策などの安全対策はこれで十分だと思っているのではなく、今後も引き続き進化させてまいります。 ・福島第一原子力発電所事故の賠償については、原子力損害賠償制度の枠組みの中でしっかりと対応させていただいております。 ・まだ福島県から新潟県に避難されている方が2000人以上いらっしゃると思いますが、最後の1人まで向き合って賠償に取り組んでまいります。	長岡
福島第一原子力発電所事故の損害賠償	・東電や国は福島第一原子力発電所事故の被害者が求めている賠償にも誠実に対応していないと皆が知っている。仮に柏崎刈羽原子力発電所で事故が起こって被害にあっても、満足な賠償も受けられないと明らかにしているのではないか。	・福島第一原子力発電所事故で、福島県の皆さまはもとより、新潟県の皆さま、広く社会の皆さまにご負担、ご迷惑、ご心配をお掛けしております。安全はこれで十分だと満足してはならず、安全性の向上にゴールはないということが福島第一原子力発電所事故の最大の教訓です。 ・柏崎刈羽原子力発電所について立地地域の皆さま、地元の皆さまに対して、真摯にご説明をしております。 ・また、福島第一原子力発電所原発事故の賠償については、原子力損害賠償制度の枠組みの中でしっかりと対応させていただいております。 ＜3つの誓い＞ 一 最後の一人まで賠償貫徹 二 迅速かつきめ細やかな賠償の徹底 三 和解仲介案の尊重 という姿勢を前面对応させていただいております。	上越
	・これまで、過去数えきれないほどの不祥事、データ改ざんや隠ぺいがあった。福島第一原子力発電所事故から10年、それが今になっても全然企業体質が変わっていない。	・繰り返し様々な事案を引き起こしてきて信頼を得られないというご指摘に関しては、安全に関してやるべきことを積み上げて、信頼いただけるように、一步一步頑張っております。	上越
	・安全対策工事しても、東京電力への信頼は得られない。コマーシャルに多額の費用が掛かっている。これを福島の方々の補償に是非回してもらいたい。ADRにいく前にもっと早く補償に合意をして、100%補償すべきではないか。	・CMに関しては、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の取り組みを新潟県内の皆さまに、広くご理解いただきたいということで取り組んでおります。発電所を直接ご視察いただくことが一番よいのですが、コロナ禍であること以前にテロ対策などで視察の制限がある中で、私どもの取り組みを県内の皆さまに広報していくことも、非常に重要な責務であると考えております。 ・もちろん福島の復興、賠償、除染にも全力で取り組む事が重要な責務であることに変わりはありません。	上越
福島第一原子力発電所の廃炉	・原子力に対する学生の応募が少なくなっているが、今後数十年かけて廃炉を進めることができるのか。	・廃炉に関しての技術継承や技術者の確保も含めて重要であると認識しております。 ・原子力は学生に人気が無いのは否定できませんが、原子力発電所には原子力工学だけでなく、電気工学、機械工学も必要で、廃炉に取り組みたいと希望し、入社していただいている方もおります。技術伝承が重要なのは仰るとおりで、企業に任せるのではなく、当社が自分たちでもできるように直営化にも取り組んでまいります。	長岡
放射性廃棄物	・再稼働をすれば高濃度の放射性廃棄物がでる。処分方法は決まっているのか。	・高レベル廃棄物について、北海道寿都町、神恵内村にNUMOによる文献調査が開始されたことは意義深いものと受け止めております。 ・当社は、高レベル放射線廃棄物の発生事業者であるため、基本的責任を有している立場から、引き続き処分地の選定・立地に向けた理解活動について、国やNUMOと連携をしながら地域の皆さまと対話活動等で、処分事業へのご理解を一つでも深めていただき、ご関心を寄せていただくよう取り組んでまいります。	柏崎

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
放射性廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 東電のホームページに使用済燃料の数が載っている。ほぼ、80.90%核燃料プールが満杯で1万3千体ある。この使用済燃料は、私の知識によると、1体でもかなり危険、人間が至近距離に近づけば即死する。それがここから2km圏内の所に、1万3千体もある。 去年の市議会で、それが満杯になったら、櫻井市長がむつ市の中間貯蔵施設に持って行くという話があったが、この前の新聞にはむつ市の中間貯蔵施設を電事連で共有し全国の使用済燃料がそこに行く。 ところが、そこへは3千から5千トンしか収容できない。しかも中間施設。最終施設じゃない。これから再稼働したあと、使用済燃料はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料は、日本全体の政策として、再処理を前提に、安全を確保しながら適切に対応していくことが大方針となります。その過程で、発電所内の使用済燃料プールで全体の最適化を図りながら貯蔵してまいります。 また、発電所から構外輸送できるタイミングになれば、リサイクル燃料貯蔵（RFS）に搬出してまいります。 ご存知のとおり、柏崎刈羽原子力発電所は運転当初、1、5、2号機と運転開始していった中で、最初は余裕のあった6、7号機の使用済燃料プールに1、2号機の使用済燃料を移送し運用していましたが、その後の運転状況の中で、6、7号機の燃料が満杯に近づいている状況なので、発電所の中で最適化を図り、安全に貯蔵しているところです。 	羽羽
	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や地球温暖化の問題に直面している中で核燃料のゴミの処分の問題も発生している。事故の恐怖を感じながら、廃棄物を積みあげている状況であり、これに対処するのが東京電力の役割であると思うので、覚悟を聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高レベル放射性廃棄物は日本では300mの深さに地層処分することになっております。 現在は候補地点の調査を国の枠組みの中で事業者も一緒に行っているところです。発電所で発生する使用済燃料は再処理工場で再処理を行い、そのとき高レベル放射性廃棄物が発生します。再処理工場に搬出するまでは発電所で安全に貯蔵することがコンセプトになっており、各セクションでそれぞれ安全に実施いたします。 また、使用済燃料については世界中で同じように悩んでおりますが、北欧のフィンランドでは処分場が決まり装置を据え付けている段階です。彼らは「今の世代で恩恵を受けていた私たちがきちんと最終処分までの道を作るのが責任だ」としております。 スウェーデンでも処分場が決まり工事が始まっております。日本でも候補地選定に向けた調査が始まったところであり、「トイレなきマンション」の状況を長く放置しては良くないため、ご理解を得るための活動をしているところです。 	長岡
	<ul style="list-style-type: none"> 原発を動かし続ければ当然ながら日々放射性廃棄物が発生するが、将来何万年にわたり管理しなければいけないと言われている。道筋も未だ見えていないという事もあるが、将来にツケ（処理）をまわす事について道義的にどう感じているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電と放射性廃棄物については、サイクルそのものが回っていないことを申し訳なく思っております。 燃料は、核燃料サイクルによる再処理を前提として、色々な方面からしっかりと対応を進められるように協力してまいります。 最終処分についても、北海道の神恵内村と寿都町で調査が始まっており、このような事業が達成されるよう我々も希望しております。 	上越
	<ul style="list-style-type: none"> 高レベル放射性廃棄物の処分について教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 高レベル放射性廃棄物は日本では300mの深さに地層処分することになっております。 当社は、高レベル放射性廃棄物の発生者として基本的な責任を有する立場から、引き続き、処分地の選定・立地に向けた理解活動等を行っている国や原子力発電環境整備機構（NUMO）と連携しながら、地域の皆さまとの対話活動等を継続することで、処分事業にご理解を深めていただき、少しでもご関心を寄せていただけるよう取り組んでまいります。 	Web事前質問
	<ul style="list-style-type: none"> 高レベル放射性廃棄物の処分にもなる費用は誰が負担するのか教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 処分にかかる費用は、電気料金の一部として、原子力による発電実績に応じた金額を電力会社などがまとめ、毎年、原子力発電環境整備機構（NUMO）に拠出金として支払うことになっております。 	Web事前質問
<ul style="list-style-type: none"> CO2の排出が、石油、石炭の排出が多いことを理由にして、国際状況の中でグリーンという原発を再稼働ということだと思う。電力会社全てそうだが、この状況の中、火力に依存している。それに対するCO2を少なくする技術はお持ちではないのか。 もっと安全な自然エネルギーだってあるが、何故その方向に転換しようとならないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 先程、国の目標についてご説明しましたが、弊社も2030年度までに二酸化炭素の排出量を2013年度値で半減していく話をさせていただきました。 この目標をどのように達成するのかが、必ずしも原子力一辺倒で目標達成するものではなく、再生可能エネルギーの活用も考えており、再生可能エネルギーの主力電源化を掲げております。 具体的には、既存の中小水力発電所の活用や、水力発電所のトラブルを極力少なくすることによって、再生可能エネルギーの発電量を増やしていくというものです。 風力発電にも取り組んでおり、陸上型はすでに各地で展開しております。大きなものは最近、銚子沖の洋上風力が弊社の象徴的な出力の一つとなっております。 再生可能エネルギーを主力電源化していけば、徐々に原子力をなくしてもいいのかもしれないと、万能なエネルギー源はないため、長所や短所を組み合わせ「ベストミックス」が必要であると考えております。 電気を作る手段として、原子力ばかりではなく、資源がない中で様々な発電手段をうまく組み合わせやっけていき、その中で、原子力発電も選択肢の一つとして、残しておきたいと考えております。 原子力発電はひとたび事故があった場合は多くの方々、広範囲にご迷惑をおかけする可能性があることからとりわけ安全性の向上に力を注いでおります。 火力発電については、東電電力グループのJERAにおいてゼロエミッション火力の実現に向け様々な取り組みを進めております。 	羽羽	

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
エネルギー構成	・誘致を受けて多額のお金を費やしたので原発を稼働したいのは分かるが、小泉元首相の講演では、「最初は原子力に賛成したが、今はとんでもないものになった。」と言っていたが、皆さんの感想は？	・（現在の）日本のエネルギー状況を見ると、資源が乏しく再生可能エネルギーが克服する課題が多くあるため、原子力発電は日本にとって保持しておくべき発電方法であると考えております。	長岡
	・長岡と同じ20 Km圏の浪江町で戻った人は14分の1であり、長岡を福島のようにしてはならない。風向きによって放射能の被害は変わる。 ・他国は再生可能エネルギーに一生懸命である。説明では技術力の高さを強調していたが、それが安全性に比例していないことを自覚して欲しい。	・当社は福島第一原子力発電所の事故の当事者であり、福島の復興、賠償、除染などについて責任をもって行うために存続を許された会社であると自覚を持っております。また、安全はこれで十分だと満足する事を絶対には思っていない、安全にゴールはないという事が福島第一原子力発電所事故の最大の教訓と思っております。 ・当社は決して、原子力・火力・水力で満足している会社ではなく、再生可能エネルギーの主力電源化を会社の方針として掲げており、特に洋上風力発電を千葉県銚子沖で始めました。非化石電源の比率を高めたいと思っておりますが、現状は決定的なエネルギー源がありませんので原子力も必要不可欠なものと考えております。	長岡
	・安全にゴールは無いといっているが、なぜ危険な原子力発電を続けているのか、それが理解出来ない。方向転換をお願いしたい。	・「日本のエネルギー事情」の中でもご説明しましたが、日本が使っているエネルギー源として絶対的な電源はなく、エネルギーミックスが必要であるという話をさせていただきます。 ・原子力に関して言えば、純国産エネルギーということで優れた安定性、いわゆる効率性があり、発電時に二酸化炭素を出しません。立地地点も日本国内で分散されていることから、脱炭素社会を目指すとして日本では、必要な電源と考えております。 ・当然再生可能エネルギーに関して、否定しているわけではなく、当社においても再生可能エネルギーを主要な電源に育てていこうと取り組みを進めております。今はまだ取り組みが大きく育ってきませんが、できることから進めております。例えば水力発電の効率を高めたり、静岡県等での地上式風力発電や千葉県銚子沖での洋上風力発電に着手しているところです。 ・再生可能エネルギー、火力発電、水力発電、原子力発電、それぞれの良いところをうまく組み合わせ、エネルギーミックスを実現していくことが必要だと考えております。	上越
再生可能エネルギー	・2050年の電源構成について経産省が国民の意見を求めているが、100%再生可能エネルギーでまかなう案に賛成した。福島第一原子力発電所の事故後に全原発がストップしても省エネすることで電力はストップしなかった。 ・大雪の時に電力が不足したのは電力会社相互のネットワークが悪いのが原因。それは技術を持ってすれば対処可能。 ・原発全廃に向けて努力すべき。EUは野心的な目標を掲げているが、日本の政策は周回遅れで原子力は古い技術でやっかいな放射性廃棄物を残すのみ。原発にこだわるなら環境に適応できずに絶滅した恐竜のような。東電の技術力を持ってすれば再生可能エネルギーの一流企業にも脱皮できるはず。その時は応援する。	・再生可能エネルギーの主力電源化に向けて技術開発に積極的に取り組んでまいります。	長岡
エネルギーコスト	・原子力発電は電気料金がどんどん上がっていく。資料では10.1円と記載されているが、そんなはずはない。 ・再生可能エネルギーだけで賦課金がとられるグラフが出ている。実際には、再生可能エネルギーは、2020年には2030年の目標を達成した。 ・原子力も賦課金つけたいのではないのか。福島第一原子力発電所の事故と柏崎刈羽原子力発電所の工事にかけたお金は40年かけて電気料金で取ると言っているが、そんなのずるい。地層も再処理も繰り上がり上がっている。	・コストの話については、本日お配りした別冊資料の経済性の部分で、ご指摘のように変動等の可能性があり、特に太陽光ではコストダウンの可能性がります。一方で原子力に関しては安全対策費等の上振れするリスクがあるということもお話しさせていただきました。 ・説明の仕方は、今後の広報活動等に活かしてまいりたいと考えております。	柏崎
	・資料では、原発のコスト10.1円と記載されている。何年間も10.1円になっている。太陽光については下がるのだが、ヨーロッパは5円、中には2円というのもある。賦課金は再生エネのみが出されている。大島教授が2年前、柏崎刈羽を試算したら13.7円だった。福島は21兆円の費用がかかっている。こんなことをしていると日本はどうしようもない。 ・原発の弱点として、稼働率がもの凄く悪い。	・「原子力で作った電気は安くはないのか」という趣旨で受け止めさせていただきます。 ・当社は、原子力発電に対しても、電力市場の変化やLNG等の燃料費の高騰等、一定の仮定状況も視野にいれ計算して行ったとしても、柏崎刈羽原子力発電所は、新規制基準に基づく安全対策によって設備投資や工事に費やしていますが、これに加えても、経済性は充分にあると考えております。 ・なお、ご説明した資料「日本のエネルギー事情」では、「発電コスト検証ワーキンググループ」のデータを参照しており、その中では原子力発電の設備利用率は70%と仮定した試算となっております。	刈羽

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
	・再生可能エネルギーはまだ高いと言うが、日本は普及していないから高い。諸外国だと単価が安くなってきている。どこからのデータを示しているのか。	・太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーへの関心が、世界的に高まっていると認識しております。私どもの会社でも、2030年までに再生可能エネルギーを一つの主力電源にする事を目指しておりますが、現段階では、天候に左右されるなどの課題もあり、主力電源化は進んでおりません。しかし、既存の水力発電の効率を良くしたり、地上風力発電や海上風力発電も千葉県銚子で開始するなど、再生可能エネルギーにも取り組むとともに、様々な電源をバランスよく組み合わせて使用する事が、必要だと考えております。 ・また太陽光等の再生可能エネルギーは今後コストダウンの可能性があり。本日の説明資料は総合資源エネルギー調査会の「発電コスト検証WG(2015.5)」をもとに作成しております。	新潟
	・今回、「7号機の安全対策工事が完了したことによる説明会の開催」について案内チラシ（東電通信第14号）が配布された。メディアで工事未完了が明らかになっているのに不誠実に感じ、行く必要ないと思ったが、あえて来た。	・広報誌「東京電力通信」（1月30日発行）は、工事未完了が確認された後、発行中止としましたが、急な対応であったため、一部地域で投函されてしまいました。深くお詫び申し上げます。	上越
広報誌	・今日も1月27日の段階で工事が完了していないことを伺ったが、1月30日に新潟日報の折り込みで工事完了したというチラシが入った。これは一体どういうことか。	・広報誌「東京電力通信」（1月30日発行）の掲載に誤りがあったことについて、深くお詫び申し上げます。1月27日に工事未完了が確認されましたが、その週末に新潟県内全域にチラシを入れる全ての手配が完了してあります。その後、委託会社へチラシの抜き取りをお願いいたしましたが、一部地域は抜き取りが間に合わず、投函されてしまいました。同日、HPへお詫びを掲載するとともに、2月6日の新聞広告（地域説明会の開催案内）にもお詫びも掲載しております。	新潟
	・1月30日読売新聞朝刊の折込みで「東京電力通信第14号」を受領しました。そこには「2021年1月12日、柏崎刈羽原子力発電所7号機において、国の新しい基準に基づく安全対策工事が完了いたしました。」とあります。しかし、1月28日付読売新聞朝刊23面では「柏崎刈羽原発7号機 工事一部未完了」の見出しで、その内容を伝えています。後段の事実を認めた後に前段の内容のお知らせ文を配布した東京電力の意図は何でしょうか。	・広報誌「東京電力通信」（1月30日発行）は、工事未完了が確認された後、発行中止としましたが、急な対応であったため、一部地域で投函されてしまいました。深くお詫び申し上げます。	Web事前質問
広報誌	・ニュースアトムの中かで、ベントは安全装置というような、まさにベントがあれば全部が解消されるという書き方がされている。 ・今回の説明会では少しは放射性物質が出ると言われた。説明会に出てくる人はわかるが、説明会に出ていない人はニュースアトムだけでは分からない。直すべき。	・頂いたご意見を踏まえ、知恵を絞りと、工夫して、しっかりとお伝えするような広報ができるよう努めてまいります。 ・なお、私たち事業者としてもフィルタベント設備に関してはできるだけ使わないために、新除熱システムを使って、格納容器の健全性を維持することを第一優先に取り組んでいるところです。もし、異常な事象が生じた場合、このシステムを機能させ、格納容器の破損を防ぐこと、それでも防げなかった場合の更なる手段としてフィルタベントを使うという考えになります。	柏崎
過去のケーブル 洞道火災	・2019年、ケーブル洞道の火事があった。後々、話を聞いたら、作り変えた新しい洞道で火事があった。中越沖地震を受けて、洞道が歪んで伸びるから余裕を持たせる工事をした。その接続したところで火事があったと聞いたが、どうなのか。	・ケーブル洞道の火災は、ご指摘の中では「地盤の変位により火災がおこった」ということですが、そうではなく、ケーブルの外周に余裕を持たせる工事をし、これが季節変化の温度差によってケーブルの外周にあるシースが収縮してずれる「シュリンクバック現象」により火災がおこったものと考えています。	柏崎
3号機所内変 圧器火災	・中越沖地震の火災の原因と対処の遅れの原因を教えてください。	・2007年7月16日10時13分頃、新潟県中越沖地震（最大震度：震度6強）が発生し、それに伴い柏崎刈羽原子力発電所3号機所内変圧器から出火しました。出火原因については、3号機所内変圧器の絶縁油が地震の影響により漏えいし、その絶縁油に電気配線のショートによる火花が着火したものと推定されております。 ・本件対処の遅れの原因は、1.初期対応要員の不足、2.消火設備の損傷・不備、3.消防署への通報遅れ、4.初期消火にあつた要員の訓練不足などがあり、その共通の背景としては、中越沖地震のような比較的大きな地震の発生に起因した火災や消火配管の破損が原子力発電所で発生すること等について、東京電力がこれまで特段想定してこなかったという。組織としてのリスクに対する認識不足等が根底にあつたのではないかとしております。 (中越沖地震における原子力施設に関する自衛消防及び情報連絡・提供に関するWG報告書の報告内容)	Web事前質問

カテゴリ	ご質問	ご回答	会場
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の気象状況を考えてみると、島国である日本が台風の通り道。こんなこと言うと関係する国に怒られると思うが、台風の方向を変えることは今の技術で、できないことはない。 ・ところが、台風を向けられた方は怒って戦争になる。基本的には皆さんの意見を聞いた中で、地球温暖化はCO2の問題が大いに絡んでいる。憎たらしい国に（台風を）やりたいのだが、それはできないので犠牲を持ってやりたい。 ・それで、私が言いたいのは東電にエールをおくりたいと思う。「ガンバレ！」と。 ・皆さん心配になるのはよく分かるがほん和对極的な立場から考えれば、威張れと言っているわけではなく、またそう言う人も居ないからいいが、ひとつ皆さん、安全に気をつけて、ぜひ安全があるという見込みがついたなら、再稼働すべきだと私は思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆さまにご心配をおかけしないように、本当に安全最優先で取り組んでまいりますという所が、言葉だけにならないように、また、冒頭の中でも触れましたが安全に対する姿勢等、ご評価いただくのは私たち自身ではなく、まさに地域の皆さまだと思っております、またご評価いただけるように、今後も努力を続けてまいります。 ・「気象が変化している」という趣旨のご指摘について、柏崎刈羽原子力発電所の安全設計を評価していく中で、地震や津波に留まらず、竜巻や火山などの様々な自然現象も評価して必要な設計対応をとっておりますが、風速についても現状の新潟県内の最大値や発生する確率などを調査し、現状の設備設計で大丈夫なのか、評価しております。 ・さらに、運転開始後もその後の状況変化を確認し、必要な反映を行ってまいります。 	刈羽